

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和3年 12月 15日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	杉元 拓斗

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、京都市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和3年 12月 12日 ~ 令和3年 12月 14日 (3日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
生き物・学び・研究センター、 主席研究員 山梨 裕美氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、京都市動物園において環境エンリッチメント・採食エンリッチメント・認知的エンリッチメントを実践するための基本的手技、さらに動物福祉を科学的に評価するために必要な行動観察を学んだ。
12月12日(1日目) 京都市動物園における動物福祉の取り組み、行動観察方法・実習の概要の講義を受けた。
12月13日(2日目) 午前：フラミンゴ班として、エンリッチメント前のフラミンゴの場所利用を観察し、その後、消防ホースでフィーダー・ハンモックを作った(図1)。動物ごとにフィーダーの大きさを調節するという動物への配慮を学んだ。 午後：フラミンゴの足の負担軽減のためにフラミンゴの放飼場の土を耕したり、ゴリラ舎に砂を運び入れたりするエンリッチメント作業をおこなった。我々は10人ほどで土を耕すのに20分以上かかったが、飼育員たちは同じ作業を約8人でおこない、15分ほどで終わらすと聞き、飼育員に尊敬の念を抱いた。
12月14日(3日目) エンリッチメント後のフラミンゴの場所利用の観察後、キジの放飼場に設置するための止まり木を作成した(図2)。
フラミンゴの場所利用の結果・考察 フラミンゴ舎を4つのエリア(土嚢手前・土嚢裏・水・草)に分け、エンリッチメント前後で各エリアの利用している羽数に変化があるかを調べた。図3より、エンリッチメント後のほうがより多くの場所を利用していることがわかる。このことから、一見するとエンリッチメントの効果が出たように思える。しかし、エンリッチメント後の観察の直前が給餌の時間だったため、えさを食べるために、フラミンゴが活発に移動していた可能性を排除できない。そのため、今回の結果からは、エンリッチメントの効果があったと結論付けることはできない。今後は、給餌の時間

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

からしばらく経ち、フラミンゴが落ち着いた時間から観察を開始する必要がある。

まとめ

この3日間の経験により、動物福祉の具体的な方法について考えを深めることができた。この経験をもとに、今後は動物のために動物園ができることをさらに考えていきたい。



図1. ゴリラ用ハンモック



図2. キジの止まり木

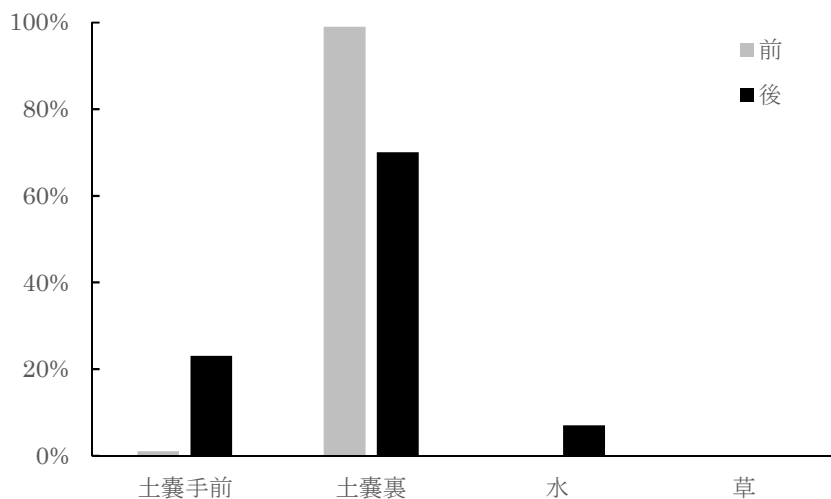


図3. 各エリアにおけるフラミンゴの割合

6. その他 (特記事項など)